

北の★女性からのメッセージ

<http://www.l-north.jp/katsuyaku/message/>

全道各地の様々な分野で活躍する女性のみなさんや、女性の活躍を応援する企業・団体のみなさんを、日替わりでご紹介しています。(平成27年度60件を予定)

	お名前	所属等	掲載テーマ	居住地
1	森崎三記子	釧路モカプロジェクト代表	人づくり基本に、自分らしく輝く女性を支援	釧路市
2	安丸千加	農業女子ネットワークはらべ娘代表	跡取り娘たちの熱い思いが北海道の農業を元気に!	上富良野町
3	土田 菜	釧路公立大経営学科4年	マタニティに優しく寄り添うアプリを開発	白糠町
4	植村真美	日本青年会議所(JC)北海道地区協議会会長	赤平、空知、そして北海道をこよなく愛して全国駆け回る	赤平市
5	田澤由利	ワイズスタッフ代表、テレワークマネジメント代表	テレワークを活用し、しなやかに輝く生き方を	北見市
6	杉本夏子	津軽海峡マグロ女子会北海道側リーダー	力強く泳ぎ続けるマグロのように女子力で地域を元気に	松前町
7	堂脇聖美	「餅&カフェ わが家」経営	豊富町への感謝が原動力。親子湯治をサポートしたい	豊富町
8	菅野菊枝	菅野養蜂場取締役	感動と情熱に導かれ。国産天然はちみつ普及に全力	訓子府町
9	川南恵美子	洞爺湖有珠火山マイスター	火山との共生、地域防災を地域とともに全国に発信	壮瞥町
10	中谷通恵	NPO法人お助けネット代表	合言葉は「ともに育ちあえる喜びにありがとう」	白老町
11	じゅうごばあ	ニセコ食品加工研究サークル	地元産品を使った「お母さんの料理」を伝承	ニセコ町
12	道山マミ	合同会社大地のりんご代表	T-1グランプリチャンピオンが地元意識を変える	網走市
13	WEAVE	若手農業女性グループ	「楽しいのは当たり前!」愛する由仁のまちを元気に	由仁町
14	倉本ひと恵	オホーツク・キャリア・デザイン・ネットワーク代表	「全てがキャリア!」幅広いネットワークで地域の活性化を	北見市
15	湯浅優子	スローフード・フレンズ北海道リーダー	「母なる大地とともに生きる喜び」を広げて	新得町
16	紫竹昭葉	紫竹ガーデンオーナー	少女の夢、多くの人に幸せを運ぶお花畑に	帯広市
17	北村 貴	㈱グロッシー代表取締役	限界を超えた時、新たな自分が見つかる	帯広市
18	び・ふらねっと	農家・デザイナーグループ	ビューティフル4Kで農業を元気に	富良野市 美瑛町
19	小梅陽子	かあちゃん食堂たまりば店主	自然体の対応でご近所との和、お客と境目が無いお店に	江差町
20	内山佳奈	北海道若手女性農業者集団Links	自由でつながる農業女性たちの交流ネットワーク	美唄市
21	旭川医大復職・子育て・介護支援センター 二輪草センター		大地にしっかりと根を張る野花のように共同参画の和を	旭川市
22	宮原光恵	Mt. ビッシリ森の国	朱鞠内の苛烈さと豊饒さを抱きしめて	幌加内町
23	㈱ダイナックス		生き生きと働く女性とともに世界水準のブランド企業へ	千歳市
24	田邊真理恵	フブの森代表取締役	リアルに森のある生活を伝えたい	下川町
25	柴田節子	八雲町野菜グループ連絡協議会代表	育てること、食べさせることが大好き!	八雲町
26	辰巳美恵	めん羊工芸館くるん代表	毛糸と時を紡いで技術の伝承を	士別市
27	田中夕貴	北海道の地域とみちをつなぐネットワーク連絡会議代表	「未来のためのみちづくり」を女性の視点から発信	紋別市
28	高村洋子	日高女性軽種馬ネットワーク(馬女ネット)前会長	軽種馬産業の復興へ、女性もどんどん前へ	様似町
29	谷あゆみ	ばんえい帯広調教師	北海道の伝統文化をしっかりと次世代へ	帯広市
30	宮竹真澄	人形作家	過ぎ去りし良き時代の優しさや暖かさを笑顔で	東川町
31	村上さゆみ	佐々木ファーム取締役	大地の生命力で育てる、無農薬・無肥料の「ありがとう農法」	洞爺湖町
32	伊藤まち子	北海道指導農業士協会理事	ドアを開け、外に出て、女性という個性発揮を	苫前町
33	藤原多美	宿・花ふらりオーナー	元タカラジェンヌの転身・手作りの料理でおもてなし	弟子屈町
34	松實とよ実	NPO法人子育てサポートネットるるる代表	独りで悩まず、家族がいつも笑顔でいられるように	中標津町
35	折谷久美子	NPO法人スプリングボードユニティ21理事長	地元愛に満ちたまちづくり活動でおもてなし	函館市
36	服部佐知子	ハートンツリー オーナーシェフ	酪農家の応援団であり続けたい	鶴居村
37	中川久理子	寿都町立寿都診療所	患者の気持ちに寄り添う医療を	寿都町

1956(昭和31)年、釧路市生まれ。東日本大震災直後の11年5月に、5人の仲間と市内の喫茶店でモカシェイクを食べながら会を立ち上げる。漁網を使ったタオルなどの売り上げは8,000個近くに達し、釧路を代表するヒット商品に。



「人づくり」基本に、自分らしく輝く女性を支援

きっかけ

普段はハローワーク釧路のキャリアカウンセラーとして、仕事と子育ての両立をサポートする個別相談を担当しています。この仕事に就いて10年ほどになりますが、才能豊かで、情熱もあり、高い技術を持っているのに、さまざまな事情でそうした能力や情熱を発揮できないで、孤独感を募らせている人たちが多くことが分かり「もったいないな」という思いが強くなりました。「つなげれば強くなる」と考えて、2011年に「モカ」を立ち上げました。「もっと大きくカッコよくありたい」が名前の由来です。

苦勞

立ち上げから5年目を迎え、会員にも温度差が出てきたように感じます。タオルとたわしが好評なのはうれしいのですが、モカの目的は利益を上げるのではなく「人づくり」です。「もっと事業をしたい」という人がいる一方で、研修会を、という人もいて、正直舵取りには苦勞することがあります。でも、最近は無理に型にはめようとせず、モカの原点である「人づくり」を基本に、自分らしくしたいことをどんどんしていこう、と思うようになりました。

満足度

「勉強会の場所代ぐらいは稼ごうか」と軽い気持ちで始めたのが、さんま漁網を使った「ボディタオル」の製作と販売です。漁網屋さんから無料でいただいて作ったのですが、これが想像以上に好評で、姉妹品の「たわし」と合わせて、今では活動の貴重な財源になっています。うれしいのは作業に携わっている人たちの反応です。彼女たちは社会とつながりたくても、育児や介護などでままなりません。「この場所があって本当に救われました」という声を聞くと、モカやって良かったな、と心から思います。

これから

30代で離婚してから、小学生と幼稚園の3人の子供たちと生きていくために、仕事は何でもやりました。さまざま場面での人との出会いが背中を押してくれました。ハローワークで相談を受けていると、当時の自分に似た人が大勢います。そんな人たちに「自分らしく生きていいんだよ、もっと輝けるんだよ」と声をかけ、「困ったらモカにおいで」と言えるような場所になれば、と思っています。釧路のまちが大好きです。釧路に住む女性ももっと元気になればまちも輝くと思います。そのお手伝いをしたいですね。

北の★女性たちへのメッセージ

子育て中の女性は、社会とのつながりが薄く、孤独感に包まれています。そんな女性がつながって元気になれば、家庭も明るくなり、地域にも活気が生まれます。「自分らしく輝いて地域を元気にしよう」という女性ももっと増えてくれれば、と思っています。